

第15回糖尿病地域連携友の会を開催しました

栄養科 糖尿病療養指導士・管理栄養士 森 美和子

9月9日(土)の11時30分から当院管理棟4階のさいゆうホールにおいて上記の会を開催しました。患者さんとご家族20名と、中塔糖尿病センター長をはじめ中国学園大学学生を含むチームメンバー19名が参加しました。今回は「みんなで考えよう! もしもの時に慌てないために」と災害をテーマにし、食事も「ストック食材で、簡単調理」にしました。ミニレクチャーは、糖尿病療養指導士の鷲原看護師から「災害の備えについて一緒に考えよう」のテーマで、命を守るための防災グッズと、糖尿病の療養を継続するために必要なものを具体的に説明していきました。「実際に災害が起きたら、食事や水は? 薬物療法はどうする?」など、状況に応じて問題は山積みです。糖尿病連携手帳・お薬手帳などを活用して自分の治療方法や体調を伝えることも大切です。

ワールド・カフェでは、グループに分かれて食事前後の血糖値の振り返りと、災害に備えての対応や非常時の準備、工夫されていることなどを話し合いました。「気にはなるけど何も準備していない」「岡山は災害が少ないから」というご意見が多い一方、準備万端な方もおられました。災害への備えはこれで完璧というものはないと思います。阪神大震災で被災された貴重な体験談もあり、充実した時間になりました。

缶詰や乾物を利用したメニュー

非常時に紙容器
クレープイリチー

にんじんシリシリ

バンバンジー

アマニ餅
ピオーネ

アマニご飯

サバ缶のサンガ焼き

会の始めには日本糖尿病協会の優良模範会員1名の表彰を行いました。表彰の条件である「満80歳以上・糖尿病歴20年以上・協会所属20年以上・医師による証明書を持つ人」を全て満たす方が対象となります。当院の患者会に元気に療養されている患者さんがおられることは、何より他の患者さんの励みになります。そして、我々糖尿病チームも元気をいただきました。次回は、来年2月頃の開催を予定しております。



祝
日本糖尿病協会
優良模範会員